

震災がれきの山が 1週間燃え続ける

岩手・山田町

岩手県山田町にある震災のがれきの仮置き場で11日に火災が発生し、17日も煙が出続け、地元消防や消防団員らが消火活動을 続けて

いる。町によると、がれき約35万トが約8万平方メートルに高さ約15メートルまで積み上げられ、うち約1万平方メートルにわたり煙が上がっている。

消防や町によると、煙は11日夕方に確認。夜には一時収束したが、翌朝再び煙が上がった。17日は約100人態勢でがれきの山を重機で崩し放水を続けたが、水が火元まで届かず、異臭が漂う状態が続いた。

国立環境研究所（茨城県つくば市）は、密閉されたがれきの内部で微生物によるガスが発生し、自然発火するとしている。がれき置き場での火災は宮城で20件、岩手では今回を含め2

件発生している。

環境省は火災防止のため、がれきの高さを5メートル以下にするよう勧めているが、山田町は「がれき置き場が1カ所しかなく（15日まで積んだのは）やむを得なかった」としている。今後は高さを下げる方針。宮城や岩手ではがれきを置く土地がなく、高さ5メートル以上になっているところも多い。

環境省廃棄物対策課は「場所がないのは分かるが、なるべく高さを低くして、温度管理の徹底や発火の危険のあるものを取り除いてほしい」としている。